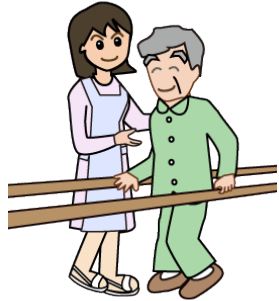


領域:リハビリテーション部

# 医療ニーズ;リハビリの介助量を評価するシステム



フリーメディカルイラスト図鑑の画像を使用

## 医療ニーズ提案部門 滋賀医科大学 附属病院 リハビリテーション部 「リハビリを効率よくしたい」

■リハビリテーション部ホームページ

[http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central\\_clinic/rehabilitation\\_dep/index.html](http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/rehabilitation_dep/index.html)

### ■ニーズの背景

- ・リハビリの効果(介助量も適切さ)の評価をする指標として、FIM(機能的自立度評価法)が用いられている。
- ・しかし、項目が細かいことや真の能力判定には使えないことが課題として言われており、適切な介助量を割り出すための評価システムが必要である。

### ■現在の対応方法

- ・FIMを用いた評価
- ・担当者の経験に基づく介助量の評価

### ■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- ・回復期リハビリテーション病棟における
    - 1)届出病床数:86,397床(2019年)
    - 2)届出病棟数:1,917棟(2019年)
- <http://www.rehabili.jp/sourcebook.html>

### 【イメージ・参考例】現状のFIM評価項目

運動項目						認知項目										
セルフケア		排泄		移換	移動	コミュニケーション		社会認識								
食事	着脱	更衣(上半身)	更衣(下半身)	トイレ動作	排泄コントロール	排痰コントロール	ベッド・椅子・車椅子	トイレ	浴槽・シャワー	歩行・車椅子	階段	理解(聴覚・視覚)	要出(官庁・非官庁)	職業解決	社会的交流	記憶
計42～6点		計14～2点		計21～3点	計14～2点	計14～2点		計21～3点								
運動項目 計91～13点						認知項目 計35～5点										
合計 126～18点																

**機能アイデア例**  
・機器として測定  
・バイオマーカー

出典: <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000184198.pdf>

お問合せ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: [hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp)